



2012年 10月



最新ニュース

Select financial facts

財務大臣とアフガ
ニスタン中央銀行
総裁の訪日に敬意
を表する

年次経済成長率
-15%以上

第一四半期(3月から6
月)の国内の総収入
昨年度同時期より13%
増加し26億アフガー
ニーに達した

18の主要銀行(イギリ
ス、その他資本も含
む)多くは国際業務も
行なう(主要都市での
ATMサービスも)

今号のコンテンツ

最新のニュース Pg.1-5

デラワリ ア
フガニスタン
中央銀行総裁 Pg. 5-6
へのインタ
ビュー

近日中のイベ
ント Pg.6



カルザイ大統領 アジア協力対話で発言 アフガニスタンは参加国入り

アフガニスタン・イスラム共和国は32カ
国が参加するACD(アジア協力対話)の
新たなメンバー国となり、ハーミド・カ
ルザイ大統領は10月16日にクウェートに
て開かれた会合に出席した。ザルマイ・
ラスール外務大臣もまた、関連する種々
の催しに出席した。

この対話の枠組みは2002年にタイ王国の
主導によって発足した。ACDの重要な目
的は、アジア諸国間の経済面及び文化面
での協力の拡大、人々の生活の向上、貧
困やテロリズムとの闘い、自然災害への
対応、そして農業、観光、物流、技術及
び人材の促進である。これらはクウェ
ート国、サバーハ・アル=アフマド・アル
=ジャービル・アッ=サバーハ国王陛下
の、最も発展が遅れているアジアの国々
を支援する20億アメリカドル規模の基金
設立への提案、という気高い先導を通し
てさらに高いレベルのものとなるであ
らう。国王陛下のこの賢明な行動に対
して大統領は歓迎の意を表した。

大統領はスピーチの中で「ACDの中心
的な原理つまり建設的な思考、形式ば
らないこと、主体的参加、多様性への
寛大さとそれを敬うこと」に対しての
アフガニスタンの敬意について言及
し、カルザイ大統領は「我々がこのと
ても重要なアジア協力対話の一員であ
ることは、我々の大陸とその向こう側
の幸福に向けての地域的協力をより一
層強める機会をさらに提供するであ
らう、と十分に確信している。」と述べ
た。大統領は加えて、「我々の大陸の
多様性と天然資源を最大限活用し、ア
ジアの潜在的な可能性を統合すること
で我々は共にACDの目標を実現するこ
とが出来ると確信している。」と述べ
皆を激励した。

(Continued on page 2)



**ザルマイ・ラスール氏
ECO外相会談に出席**

ザルマイ・ラスール外務大臣は10月15日、アゼルバイジャンで開催された経済協力機構（ECO）の第20回目となる外相会談に出席した。ECOは「域内での貿易、投資機会及び発展を促進する方法について議論する場を提供する」（Wikipedia より引用）ために国際連合憲章第8章に基づき10カ国で構成される。

外務大臣が「自国と近隣諸国での地域的経済統合による結びつきは、さらに力強い信用と協力の結束を築き、そして平和と繁栄の配当を我々にもたらすであろうことを、私は断固として信じている。」と詳しく述べたように、アフガニстанは重要な地域集団への参加を優先している。

これに関してアフガニстан・イスラム共和国は幾つかのECO諸国と共に、ECO銀行への参加や「ECOシルクロード・トラックキャラバンと同様の、イスラマバード-テヘラン-イスタンブール路線を通るECOコンテナ列車」の開始など、外務大臣のスピーチで強調された領域も含めて、更なる連携を築き、重要な進出を行ってきた。アフガニстанへの効果を予め調査した上で「中国からキルギス共和国、タジキスタン、アフガニстан、イラン、そしてトルコを經由してヨーロッパへの鉄道の開通」というものが、言及された更なる計画に含まれていた。

ラスール外務大臣はこの構想とその構成国の状態に更なる成功をもたらす方策を以下の通り提案した。

「地域間の貿易と輸送のための21世紀のインフラ整備をすることはアフガニстан、ECO諸国、そして我々の過去10年間の国際的な協力者たちによる重要な投資を保護し、長きに渡って持続させるための最良の担保であるのと同じ様に、障壁の減少を早めるために今勇氣あるステップを踏み出すこと、加えて、我々の地域に住む人々の大部分は農業に従事しているため、それゆえ我々はECO諸国間でECO地域における農業とそれに関連する事業の発展のため協力の拡大を奨励する。」

**ザヒルワール財務大臣
デラワリ中央銀行総裁
IMF年次総会及び関連行事に出席**

オマル・ザヒルワール財務大臣とヌールラ・デラワリアフガニстан中央銀行総裁は国際通貨基金（IMF）と世界銀行の年次総会及び多数の行事や会合に参加するため10月9日、11日にそれぞれ日本に到着した。

サイード・ムハンマド・アミン・ファティミ大使は、アフガニстан・イスラム共和国の経済面での発展、及びその他の分野における財政上の成功そして平和への希求を保証すること、これら両方の点から進歩をもたらした両氏の役割に深い感謝の意を表明し、2名の紳士と共に貴重な時間を過ごすことができた。

ザヒルワール財務大臣の日本滞りへの敬意を表した歓迎会は10月10日に在日アフガニстан大使館にて開催され、日本で研修に参加中のアフガニстанの教師たちへの訪問も行われた。

全出席者に向けての講話の際、ファティミ大使は異なりつつも相互に関係のある分野に身を置く出席者に向けて、国家の持続的な成長の保証と日本との強固な関係を築くことに努めるよう説いた。

12日にファティミ大使は訪日団の方々そして大使館職員とともにIMFの年次総会に出席した。

スピーチは、皇太子殿下、リヤド・サラーム議長、クリスティーン・ラガルド国際通貨基金専務理



ジャブル・サラジ宮殿

今月パルワン州にある歴史的な宮殿であるジャブル・サラジの再建がアブドゥル・バシル・サラング知事と地元の人たちの財政援助によって始まった。宮殿は20世紀のはじめにハビブッラー・ハーンによって建てられたものであり、博物館が新たに施設内に作られる予定である。

全国的な開発、成長続ける

5つの橋がドイツ技術協力公社とアガカーン財団の支援を受けてバダフシャーン州のダルワザにあるコクチャ川に建設された。これらの橋の開通式典には、ワイス・バルマク農村復興開発大臣、オマール・ザキルワール財務大臣、環境部の事務局長であるムスタファ・ザーヒル氏、バダクシャーン州のシャー・ワリウッラー・アデーブ知事と地元当局者が出席した。同市ではこれらの橋に加えて、104kmの道路も建設される予定であり、シェグナン地区、マヘンメ地区、ナシ地区、シャキ地区とコファブ地区を接続を可能にする予定だ。

橋や道路の開通を機にファイザーバード市においてユニセフの支援のもと、給水プロジェクトが開始され、水不足の地域の約15,000世帯に飲料水を提供することを可能にした。

今月初め、ローガル州の発電所とプリアレム地区の変電所の建設が正式に承認された。この建設は一ヶ月以内に開始され、20カ月以内に完了する予定である。



事、そしてファティミ大使が以前の大任職で監督していた、医療分野構築におけるアフガニスタンの成功は世界へ良い影響を与えたと言及されたジム・ヨン・キム世界銀行総裁、によって行なわれた。

ザヒルワール財務大臣はその他の活動として10月10日に国際協力機構副理事長の堂道秀明氏とのアフガニスタンの平和と発展に向けて日本が協力し、継続して努力することに関しての会合に出席した。

財務大臣はまた10月11日に開かれた「南アジアと世界経済危機：地域協力は経済を安定させ、成長を拡大することができるか」というラウンドテーブルに出席した。

それらに伴う会合はマリサ・ラゴ米国内務省副事務局長、マソド・アーメドIMF中東部局長、ネマト・シャフィクIMF副専務理事、そしてインドラワティ氏の参加で開催された。それぞれの会合において、これまでの協力から得られた進展が話し合われたのと共にこれからの協力関係についても議論された。

財務大臣はまた訪日団と大使館職員と共に野田佳彦総理大臣主催の歓迎会に出席した。

デラワリ総裁は国際協力機構代表、IMFのアーメド氏、そしてアラブ首長国連邦からの訪日団、民間の国際銀行、その他の団体と会合を開いた。大使館はまた10月16日にデラワリ総裁への敬意を表し歓迎会を主催した。

世界教師の日 式典 執り行われる

世界教師の日は10月5日に、カブールを含む、その他の都市で全国的に祝日として定められている。1961年にアフガニスタンでアリ*アフマド・ポパル博士（当時の教育相）により行われたのが式典が始まりである。

カブールの学校のひとつであるアリアナ高校で開催された今年の祭典では、モハマド*ワヒドヌリ国際部門・文化部門教育相が社会発展における教員の役割について語った。アビドゥラ・オビッドゥ高等教育局もまた祝辞を述べた。

これに関連したニュースとしては、バグラーン州のプルクムリで14の市から2000人近くの教員のための1ヶ月の研修があり、これはスキル向上を目的としている。4万人近くの教師もまた、後日同様の訓練を受けることが可能であるとのことだ。



新しい3Gサービス・光ファイバーにより可能となった高度なインターネットアクセス

アフガニスタン国民の約7%しか、現在インターネットに接続できる環境下にいない。より多くの国民が利用可能な環境を築くために、アフガニスタンの通信省（MCIT）は国内で3Gサービスを提供を可能にするよう民間の通信会社に許可を与えた。これらの通信会社にはMTNと同様、カブール州、マザリシャリフ州、ナンガルハール州とヘラート州の事業者も含まれている。携帯電話の所有台数が増加する中で、インターネット利用拡大が急速に進むことが予想される。

3Gサービスは、政府への米90億ドルの追加歳入が期待されている。加えて、同省は光ファイバーサービスの拡大にも取り組んでおり、アフガニスタン電気通信規制者協会（ATRA）のヘイル・ムハメド・ファイゼイ氏によると、これらの動きは社会全体の利益だけでなく、教育機関、農業、貿易やビジネスコミュニティのための具体的な支援をも可能にしているという。

アフガニスタンのジュース製造会社 拡大

ムスタファ・サディク氏のカブールを拠点としたOmaid Bahar社（春の願いという意味）で世界最高峰のジュースを製造していることで有名な会社である。Omaid Bahar社は世界中からの健康商品への需要の高まりで前例のない成功を収めた。

Omaid Bahar社は果実飲料や生鮮食料の販売に特化しており、特にイギリス、西ヨーロッパ、カナダ、ドバイ、パキスタン、インド、東南アジアにおいてはザクロ製品によって顧客から高い利益を得ている。2年間の運営後、現在の売り上げは30万アメリカドル（日本円にして約30億円）である。この会社は約1000人従業員を雇用し、さらには会社に対して毎年40,000トンにも及ぶ果物を売る35,000人の農民に収入をもたらした。サディク氏はこの家庭で農民の現代化にも一役買った。会社はヨーグルト、果実風味の牛乳、ジャム、ゼリーといった新しい製品開発で成長を遂げた。さらにはアメリカ合衆国やタジキスタン、ウズベキスタンでの販売に尽力したことで、アフガニスタン治安部隊やNATOにおいて

も果実飲料を供給できるであろうとサディク氏は考え、100万アメリカドルも見込めると考えている。

「わたしたちは極上の製品を取り揃えており、しかもほぼ有機的に作られたものだ。そうした風潮や味の良さでわたしたちは競争において有利だと言える」とサディク氏は話している。

しばらくして、世界銀行がこ一番最近の評価で2010年11月に多大な援助のおかげで8.4パーセントの成長に達したとしたが、NATOの引き上げによりその成長は半減したのではないと思われる。

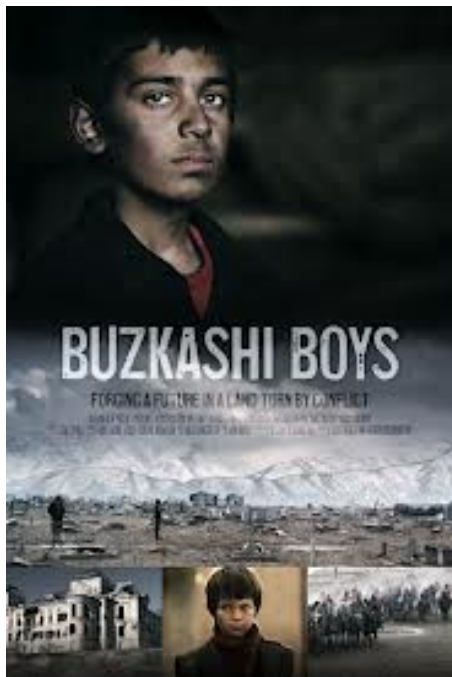
石炭の収益増加

サマンガン州では、過去6ヶ月間ダライソープ炭鉱から7.21億アフガニ収入を報告した。これは、前年同期を1.93億アフガニ上回った。前回調査によると、炭鉱は150万トン以上の石炭を含んでおり、石炭は現在、国内および隣国で使用されている。

新しい軍事学校が建設中

新しい軍事学校の建設が開始した。この学校は年間1,500人のアフガニスタン国軍の士官を育てる予定だ。アフガニスタン国軍シル・モハメド・カリミ参謀長は、この学校は「教育的能力をアフガニスタン国軍兵士の間で高めるであろうし、また、より専門的なリーダーシップを軍内に要することが出来るようになるであろう」と述べた。はじめの内は、この学校はイギリスによって支援されるが、すぐにアフガニスタン側によって訓練や作戦が行われるようになる予定である。また、建設は1年で完了する予定だ。





「ブズカシの少年」
多数の映画賞受賞

アフガニスタン映画「ブズカシの少年」は、ロサンゼルスショートフェストで最優秀賞を獲得し、同時に複数の映画賞を受賞した。これはアカデミー賞ノミネートへの大きな一歩となる。物語はアフガニスタンの国技であり、ポロの起源とされているブズカシの乗り手になることを夢見る二人の少年を題材としている。

現在、アフガニスタンの映画産業が軌道に乗り始めており、国内の一部の大学においては、映画に関する講義も行われている。またこの産業は



ハリウッドスタイルの映画関係文献と伝統的な国技らしさとの絶妙な調和を作るために、多数の国際団体と協力している。

代表選手ら初めての国際ラグビー選手権に出場する

設立されて2年未満であり、アジアラグビーフットボール協会には昨年11月に加盟したばかりにも関わらず、アフガニスタンラグビー連盟は代表チームを初めてインド、ムンバイのアジアンセブンズにおける公式な選手権に出場させた。

今年初め、アフガニスタンチームはアラブ首長国のシャヒーン相手に多く野の非公式試合を行った。ムンバイ最初の公式戦には15カ国ものチームが揃うことになるだろう。アフガニスタンは予選で日本やフィリピン、シンガポールと2012年10月13日から戦った。最終順位においては低かったが、チームの意識は高いままであり、この短い期間で国際舞台で選手たちが活躍できることを示した。

**インタビュー：
アフガニスタン中央銀行総裁
デラワリ氏**



アフガニスタン中央銀行総裁スールラ・デラワリ氏にインタビューを行った。同国の経済面は着実な成長を見せている。デラワリ氏は開発に関する事例や、これまでに幾度となく話し合われたカブール銀行に関する問題が誰にもダメージを与えることなく解決されたこと、それによって新たな自信が生まれたことなどを話している。以下はインタビュー内容である。

(写真：アフガニスタン中央銀行のウェブサイトより)

—現在アフガニスタンの銀行業界で行われている開発事業についてお聞かせ下さい。

カブール銀行での失敗による停滞はあったものの、昨年からは金銭面と顧客面の双方において回復の兆しが見えてきています。さらに国内の銀行システムに対する信頼も戻り始めております。銀行の機能に関して言えば、全体的に立ち直りつつあると言えるでしょう。

今回の失敗で学んだことを生かし、今まで問題を起こしてきた抜け穴を防止する目的で法律にいくつかの改正を加えました。法律を含めた銀行システム全体の構造における改善を行ったのです。

—銀行システムに起きた変化はめざましいですね。カブール外への銀行の進出状況はいかがですか。

現在国内に220の支店を抱えています。ほかにもカブール市内や、



その他の商業施設におけるATMの設置などのサービスを提供しております。

最新の業務は、既にライセンスを取得した、問題なく稼働しているモバイル銀行 (Roshan)でのモバイル・ペイメントの実現です。これを使えば電話口で、数分間で、国内のほぼ全域へお金を移動させることができます。MTN、Etisalatそして通信省に属する政府のオペレーター、計3つの通信業者があります。それらはライセンス取得へ向けての段階に入っています。中央銀行はライセンスを交付するための規定及びそれらの事業者を監視する規定を議会に提出しました。そしてこれが国の大部分へのアクセスを可能にすることを期待しています。今日、アフガニスタン人の3%以下が銀行を利用しています。この媒体を通すことで、全国土で銀行の利用が可能になるのです。おそらく50%以上の人々が利用することになるでしょう。モバイル銀行はお金の移動のためだけではなく、国全体にまたがる事業をてがけるためのものでもあるのです。

々は請求を支払い、給料を受け取り、どんな生活に関する料金を支払うことも可能になるでしょう。

財産を移動させるとき、あなたは料金を払います。旅をするためにパスポートを手に入れるとき、あなたは料金を支払う必要があります。これらのことがすべてモバイル銀行で可能になるでしょう。

—今のところの運用状況はどうなっていますか？

Roshanは国全体で30000の口座を設置しました。我々には今新しい考え方があり、お金の支払い問い受け取りの新しい方法が導入されたということです。

—カブール銀行の問題のあと、どのように信用が回復されたのかをさらに詳しく教えていただけますか。

カブール銀行は初めてのテストでした。誰も全くお金を失いませんでした。我々はその点では保証はありませんが政府は銀行業務の重要性と支払い及び希望する全額の返却の担保を認識していました。そうして、誰もお金を失いませんでした。しかしながら銀行を崩壊させ要因はありました。そしてこれは国際社会において重要な要因でした。2つの国際機関が助けのため来てくれました。ひとつは、イギリスのKrollという会社です。彼らはカブール銀行と2番目に大きなアジジ銀行で仕事をしてくれました。かれらはとても有益な情報と指導を行なってくれました。

—多国籍軍とかれらが注ぎ込んでいた基金が撤退した後の経済的な悪影響が起こらないことを確実にするた

めにどのように中央銀行が政府とともににはたらいっていますか。

この結果としては何も問題はおこらないでしょう。 .

イベント情報

第4回港区ものづくり・商業観光フェア

【開催日時】

2012年11月9日(金)～11月10日(土)

11:00～19:00

【会場】

東京ミッドタウン
キャノピー・スクエア、アトリウム、コートヤード、芝生広場

大使館は、アフガニスタン文化を広めるためにダリ語によるヘナタトゥーやアフガンジュエリーの販売を行ないます。

栃木アフガンイベント

【開催日時】

2012年11月18日

詳細は大使館のホームページをご覧ください。

106-0041 東京都港区麻布台2-2-1
在日本国アフガニスタン大使館

電話・ファックス
Tel: 03-5574-7611 ・ Fax: 03-5574-0195

ウェブサイト
www.afghanembassyjp.org



Contact Us

当大使館のニュースレターに関するご意見、ご質問等ございましたら、大使館広報部 Jason Pratt宛に電子メールにてご連絡下さい。

pratt@afghanembassyjp.org
Facebook: www.facebook.com/afghanembassyjp



アフガニスタン大使館ポッドキャスト

